

令和6年第8回加西市教育委員会会議録

- | | | | |
|---|------|--------------|---------|
| 1 | 開会日時 | 令和6年8月20日(火) | 14時00分 |
| 2 | 閉会日時 | 同日 | 15時44分 |
| 3 | 開催場所 | 市役所1階 多目的ホール | |
| 4 | 出席者 | 教 育 長 | 菅 野 恭 介 |
| | | 委 員 | 中 川 和 之 |
| | | 委 員 | 楠 田 初 美 |
| | | 委 員 | 深 田 英 世 |
| | | 委 員 | 荒 木 努 |

- 5 上記出席者及び傍聴人を除き、会議に出席した者の氏名

教育部長	伊 藤 勝
次長兼教育総務課長	井 上 英 文
学校教育課長	小 坂 卓 司
こども未来課長	阿 木 博 信
生涯学習課長兼市史文化財係長	北 島 悦 乃
総合教育センター所長	三 村 尚 彦
図書館長	桜 井 雄 一 郎
学校再編室長	中 井 孝 浩
教育総務課長補佐兼総務係長	松 田 ち あ き
学校再編室(学校再編推進員)	吉 村 靖

地方教育行政組織及び運営に関する法律第14条第3項に定める定足数に達していることを確認し、議事に移ります。

- 6 付議事項

議案第26号 加西市立学校施設目的外使用条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

- 7 議題となった動議を提出した者の氏名

なし

8 質問及び討議の内容

議案第 26 号 加西市立学校施設目的外使用条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

(学校教育課長の説明) 加西市立学校施設目的外使用条例施行規則の一部を改正する規則について、以下のとおり制定したいので委員会の議決を求めるものです。第3条と4条の内容を整理し、併せて一つの条項を削除しようとしています。新旧対照表をご覧ください。第3条につきましては、改正前の「使用料納付書によって、出納室に現金」という言葉を削除し、「使用料」だけに修正します。既に出納室はありませんし、現金だけでなく今では PayPay 等の電子マネーでも支払いが可能となっているからです。第4条につきましては、(1)の「他人の嫌忌する疾病のあるもの」という時代錯誤的な表現を削除し、「感染症患者」とします。また、(3)の「兇器」の「兇」が常用外の漢字のため、常用漢字の「凶」に修正をします。さらに、第6条には「使用者が学校施設の使用期間中に電力、電灯、市内外電話、その他消耗品を使用するときは」といった文言がありますが、実質的に電気や水の使用量だけを徴収するのは無理ですし、消耗品を使用させることもありませんので、この第6条を全て削除します。これによってできた条項の空白を詰めるため、現行の7条、8条、9条をそれぞれ6条、7条、8条に修正します。

9 議決事項

議案第 26 号 加西市立学校施設目的外使用条例施行規則の一部を改正する規則の制定について

原案どおり可決

10 報告事項

教育長

別紙の教育長報告をご覧ください。全てを読みますと非常に時間がかかりますのでかいつまんでお話をさせていただきます。

まず、7月24日に播磨東地区の教育委員会連合会理事会総会、研修会が行われました。研修会ではしんどさを抱える子どもたちの理解と支援ということで、立命館大学の宮口教授にお話をいただきました。宮口教授はコグトレといいまして、非常に認知的に困り感のある子どもたちをトレーニングするという有名なトレーニングを開発された方です。北播の出身、小野高校の卒業生ということで、ご存じの教育長さんもい

らっしゃいました。

7月25日は加西市教職員教育講演会が行われ、不登校って何だろう、学校って何だろうということの不登校についてのお話をいただいております。今、本当に学校の喫緊の課題です。

次に、第2回タウンミーティングを7月29日から8月2日に行っています。泉中学校の統合小学校の開校について跡地利用とか道路整備のご意見をいただいております。教育委員会からは小学校、中学校の開校準備委員会の進捗状況等について説明をさせていただきますました。

7月30日に市議会主催でこども議会が開催され、傍聴をいたしました。子どもたちは加西市の未来について非常に鋭い質問をして、議員はそれに対し非常に誠実に答えられていました。非常に子どもたちにとって地域や政治に関心を持ってもらう貴重な機会になったと思います。

7月30日には統合中学校のワークショップが行われました。

8月1日には定例校長会が開かれ、特に熱中症について検討を依頼しています。議会総務委員会については教育部長から説明をいたします。次に、賀茂幼稚園について、こちらはこども未来課長から説明をいたします。

8月4日に山南中を訪問いたしました。委員さんも一緒に参加していただきありがとうございました。非常に参考になりました。特に、「Simple is best」という言葉は印象的だったなと思っております。

8月9日、腹話術の人形「あっちゃんと語る被爆体験」が行われました。これは連合婦人会が主催して、腹話術のろごすねひめ加西と社会福祉協議会の尽力で開催されたものです。当日は北条学童こども園の子どもたちが聞きに来ました。前日に北条東と賀茂の学童保育園の子どもたちが聞いております。とってもいい話でホールもほぼ満席という状況でした。

8月17日には統合中学校の親子対象のワークショップが行われました。

8月18日には人権文化を進める市民の集いが開かれ、表彰と蓮池薫さんの講演が行われました。本人にしか語れない非常に重いお話だったと思っております。

現在、8月19日からイングリッシュキャンプを開催しております。オークタウンにて30人の子どもが参加して頑張っています。ALTは非常にきれいな英語の発音で、いい感じで今できているなと思っております。

教育部長

8月1日付の人事異動について報告しました。

8月7日に開催された閉会中の総務委員会について、委員より質問のあった内容についてご報告します。一つは、中学校の新制服の方針についてです。決定の経緯につ

いての質問には、6月27日の開校準備委員会で方針を決定したと回答しました。開校準備委員会に関連し、「活発な議論が交わされるような工夫が必要ではないか」とのご要望をいただきました。

また、学校での熱中症対策の対応や備え、英検等の外国語教育の取組みや実績、ALTの契約の状況についての質問もいただいております。それから、教員の不足、特に臨時講師が不足している現状や今後の見通しについての質問等もいただいております。

次長兼教育総務課長

令和6年度（令和5年度分）点検評価報告書についてご報告します。7月12日に評価委員会を開催し、両評価委員に点検評価について協議いただきました。両委員からは、共に「概ね妥当」という評価をいただいております。委員からご指摘いただいた改善点については、表記の方法等を含め来年度に向けて改良していきたいと考えております。

教育委員の質問と次長兼教育総務課長の回答

- ・来年度にむけてのスケジュールは決まっていますか。
(回答) シートの修正を含め今から考えていきます。
- ・令和7年度からはもっと教育委員も教育長も入ってぐっと進めていきたいと思っています。スケジュールの詳細なところを教えてもらえればと思います。また、こういうことは教育委員が考えてくれというようなことを言ってもらえれば、私たちには令和6年の資料があるのでそれを見ながら考えます。こちらのほうから要望を言えるような機会を去年以上に増やしていただければ、もっといい点検評価ができるのではないかと思います。スケジュールができ次第またよろしく申し上げます。
(回答) 出来次第ご報告しますので、よろしく申し上げます。
- ・5年前に初めて教育委員をしたときに比べれば、本当に分かりやすくなっています。もっともっと市民の人を引っ張ってやっていかなければいけないなと思っています。
- ・堀内教授も書かれていますが、コロナ禍だったときの目標数値を上方修正する必要があるかというややこしいところもありました。これについては特に図書館の入館者や生涯学習課については難しい面もあろうと思いますが、今、コロナが一応、一段落しています。まだ感染が増えているという状況も一方ではありますが、コロナ禍において設定された目標をどうするかというのが一つあります。
もう一つは4段階の2が「概ね達成」となっていることです。四つある中での2

は低いのではないかという感覚がありますので、教育長も言われていたように5段階にするのか、4段階のままで3を「概ね達成」や「より超えて達成」という形にするのか、その辺りも検討いただけたらと思います。

(回答) 評価基準を変更できるかどうか検討します。

学校教育課長

夏季休業中の活動につきましてご報告します。

学校の夏休みも、あと2週間弱となりました。今のところ大きな事故等もなく子どもたちは元気に過ごしています。中学校の部活動におきましては今年度、全国大会に陸上で1名、水泳で1名、それから近畿大会についても陸上で1名と水泳で1名が参加しております。全国大会は福井県と金沢で行われたと聞いております。新聞等にも結果が出ておりました。

昨日からオークタウン加西でイングリッシュキャンプ in 加西が始まっています。30名の参加希望がありましたが、急に体調不良で1名の欠席があり29名でスタートしています。今回新しく業者を選定し、8名のALTを派遣してもらっています。全員フィリピンの方で、我々にも聴きやすい非常にきれいな英語をしゃべっておられました。加えて、日本人の英語に堪能なスタッフが3名と1名の看護師がついて見守ってくれています。活動は午前9時から5時55分まで、正確には5時半頃には終わるのですが、かなり過密なレッスン計画があり、英語づけの5日間を過ごすという計画です。

英語づけといいますが参加者が小学校5年生から中学校3年生までと幅があり、半数が小学生ということもあって、なかなか当初掲げていたオールイングリッシュとまではいかないのですが、子どもたちは非常に元気に活発に、今は2日目の午後のレッスン中ですが、楽しそうに頑張っています。今日は火曜日ですので、まだこの後、3日間ありますので、修正を加えながらより充実した活動になるように我々も支援していきたいと思っております。

教育委員の質問と回答

- ・最終目標は何ですか。
(学校教育課長の回答) 主には、コミュニケーション能力を身につけることです。
- ・中学生が今、英検も加西市でやっていますが、それと何か関係性はあるのですか。
(学校教育課長の回答) 英検の二次対策で面接や会話の練習とかも含まれています。
- ・これは加西 Global の一環だということですね。
(教育長の回答) はじめに一人ずつ、英語で質問をして英語で答えるビデオを撮って

います。そして、最後の段階で同じような質問をしてどれぐらい答えられるようになったのか成長を見ようということも企画されているようです。短期間ですので、積み重ねのような学習とは違い難しい部分がありますが、自分が成長したなという実感を子どもたちに抱いてもらういい機会だと思っています。

こども未来課長

令和7年度認定こども園等入所申込みのお知らせについてご報告します。令和7年度の入所申込みを10月から行う予定です。今回の変更点は、申込みを電子申請でも行えるようにしたことです。教育利用の1号認定の方については、申込期間は10月9日から25日まで、受付場所は入所を希望するこども園へ直接提出していただきます。続いて、保育利用の2号、3号認定の方については、申込期間は同じく11月9日から25日まで、土日祝日を除く午前9時から午後5時までで、受付場所は加西市役所こども未来課で行います。入所申込個別相談会を9月11日、12日の2日間で行う予定です。

続きまして、賀茂幼児園に関する保護者説明会についてご報告します。8月7日賀茂幼児園で保護者説明会を行い、保護者19名の方に参加いただきました。教育委員会からの説明としまして、少子化により子どもが生まれる人数が減少していること、賀茂幼児園の定員は60名ですが、実際の園児数は令和6年度末で41名と定員を割り込んでおり、今後も園児数の減少が見込まれていること、教育委員会では令和元年度に北条ならの実こども園と泉よつばこども園の2園を残し、加西こども園と賀茂幼児園は民営化する方針を決定していること、しかしながら子どもの人数が減少している中で、賀茂幼児園については新たに民営化して残すということも少し難しいのではないかという説明をしました。また、昨年12月に小中学校の再編方針が発表され、令和10年3月をもって賀茂小学校が閉校となることから、今後の賀茂幼児園をどのようにしていくのかを保護者の皆さんと一緒に検討したいということで説明しました。

保護者の皆さんからは、市の具体的な提案がないのでわかりづらい、ある時期に一斉に閉まるのか、最後の子どもが卒園するまで開園するのか、また閉園になった場合行くところがなくなると困るが、民間園はこのままの数で残るのか、また他園に行くことになる場合、スクールバスなどの検討はしてもらえるのかといったご質問がありました。教育委員会からは、来年4月の入園申込みについては通常どおりお受けできること、また来年4月に入園する子は賀茂幼児園を卒園できるように検討していきたいとの説明まではしました。9月末に行う予定である次回の保護者会の場で素案を示し、来年のこの時期ぐらいまでに一緒に検討を進めていきたいという説明をしました。

教育委員の質問とこども未来課長の回答

- ・私も傍聴しましたが、保護者はとても興味を持っていただいております、意見も結構出

ていたので、できたらそうした保護者の意見も尊重しつつ素案を示したほうがいいと思います。私が見た限りですが、「もう仕方がないのか」とか、「定員を割っているのならここで考えないといけないのか」というような親の覚悟というか、そういうつもりで来られている保護者が多かったように思います。ですから、納得する根拠をついた素案を出していけば、保護者の方も安心してくださると思います。今からまた大変だとは思いますが、よろしく願います。私も地元なので、素案を出される前に教育委員にも見させていただければと思います。

(回答) 分かりました

- ・前回の委員会では、たしか当初は市の方針を示さずに取りあえず保護者の意見を聴こうということでしたが、そこから多分変えられたと思います。実際に変えてみてどんな感じでしたか。当初言っていたように市の明確な考えは言わずに行った場合と今回ある程度こういうふうにしていくと言った場合との違いは、どう感じられましたか。

(回答) 具体的な形は今回お示ししていないのですが、保護者にとっての不安要素だったのは、今、園に入っている子どもたち、また来年入る子どもたちはどうなるのか見えないということだったと思います。そういった不安の声があったので、来年や再来年すぐに閉めるとは現在検討していないこと、また今おられるお子さんの卒園までは何とかしたいということをお話させていただいたので、保護者も少し安心感を持たれたのかなと考えております。

- ・それなりの意見が聴けたという感じですかね。

(回答) そうですね。

- ・思ったよりも意見は多かったです。統合中学校や小学校の静かな感じとは違って、人数が少ないのと、不安感もありますから、教育委員会が言ったことに対してすぐに質問が出ていました。私も意見があつてよかったと安心しました。

生涯学習課長

公民館講座ドラフト会議についてご報告します。公民館講座というのは、公民館長と職員が企画をし、参加者を募集するという方法を取っています。しかし、公民館職員とともに企画運営を行うことで、公民館を身近に感じてもらうとともに公民館の活性化を図ること、また地域の活性化や地域で活動する個人や団体の育成を図ることを目的に、昨年度から市民の持っている知識や技術を生かした講座のアイデアを市民に提案していただくこの取組みを実施いたしました。募集期間は7月5日から8月30日までとしています。現在、7講座の応募をいただいております。参考までに報告しま

す。今年度はこのドラフト会議で提案された 11 講座の中から各館 1 講座、計 4 講座を指名し実施しています。

こちらの想像を超える反響のあった講座もあり、当初の定員を倍に増やした講座もありました。職員は、あらゆる情報を収集し、市民の皆さんが興味を持つ講座の企画に努めてはいるのですが、ドラフト会議で、市民から自分の参加したいものや自分が講師になりたいとご提案いただいた講座は、新たな視点が入っていると実感しております。今年度もドラフト会議でいただいた提案の中から職員、提案者が一緒になって来年度の講座をつくっていったらと考えています。善防公民館以外では、まだこれから実施される講座がございますので、教育委員の皆様もお時間とおありのときにのぞいていただけたらと思います。

教育委員の質問と生涯学習課長の回答

・教育委員会というと学校教育に目が行きがちになりますが、実際の年数で言えば人生 100 年時代を迎えている今、生涯学習というのはとても大切で、特に高齢者の生きがいづくりにつながります。私も少し九会の方と創造会議に関わっているのですが、今までは男性の高齢者が中心みたいだったのですが、ちょっと若返ってきて何とか女性や若い人を呼び込もうということをやっています。少しずつそういう雰囲気が出てきたなと思います。こういうドラフト会議にしても地域ニーズを掘り起こしていただきたいと思います。今、応募者が多くて定員を倍にしなければいけないというようなとてもうれしい話がありましたが、そうやって地域活動が活発になるというのはとても大事なことだと思います。いろいろなアイデアを出し合いながら、我々も一緒に頑張っていきたいと思います。

・小学生や中学生も含めたようなアイデアの講座は結構ありますか。

(回答) 今年、善防公民館ではフライパンクッキングという講座を開催しました。これは小学生の親子対象の講座です。講師がフライパンを使った様々なメニューを提案されたのですが、講座では、魚のさばき方という小学生には高度なことも調整したようです。魚をさばくというなかなか家では経験できないことを、一からできるということで皆さん熱心に、そして楽しく親子で取り組めたようです。今年の講座では善防公民館のこの講座だけが親子対象で、あとの 3 講座は大人向けとなっています。ただ、北部公民館の筆文字アートは、通常の講座より若い世代の方も多かったと聞いております。

・ドラフト会議もいいのですが、小学生や中学生も含めた何かができたらいいなと思って、私はずっと小学校、中学校と言ってきました。去年、善防公民館には中学生

が来てくれて、小学生のボランティアもいましたね。

(回答) 善防公民館では、今年度も子どもが参加できる未来塾を引き続き行っています。それぞれの公民館では目指す像というのがあり、中央は伝統文化ということで生け花や茶道を行っています。北部では夏休み期間に、ALTの方にご協力いただいて通常の講師と一緒に英会話教室をしています。英語で歌ったりダンスをしたりしています。子どもの講座というのも以前に比べると増えており、参加者も増えています。例えば善防の将棋はもう消滅かと思われた時期もありましたが、藤井聡太さんのおかげで今ではすごい人気となっています。

少しずつ各公民館のカラーを出しながら子どもが参加できるもの、委員ご提案のとおり中高生が参加できるもの、あるいは中高生が講師等主体のほうに回れるような講座の開催等の企画についても、今後はしていければと思います。

- ・今、北条高校は読み聞かせとかすごいですね。鶉野飛行場のフェスティバルなどいろいろやっていて、部活動ではないですが「うずらの班」とかがあって結構力を入れてやっていますね。北条高校は STEAM の一環としてやっているから、学校訪問のときに小・中学生も北条高校とコラボしてやったらいいねと今、私も宣伝しています。この公民館まつりに向けて何か一つの目的で、例えば先ほどのフライパンの料理講座であれば、これをどうしたら給食の一端にできるだろうかというような目的を持ってやられたほうが、子どもさんも参加するのではないかと思うのですが。私も難しいですけど、いろいろと考えてみます。

(回答) これから来年度の企画を作っていく時期でもありますので、本日もご提案いただいた内容を皆と共有して一つでも反映できるようにしていけたらと思います。

総合教育センター所長

令和6年度第1回総合教育センター運営委員会についてご報告します。7月5日金曜日に総合教育センターにおいて、運営委員と教育長、センター職員の計10名出席の下、センター運営委員会を行いました。センター職員より事業概要、教育推進、育成支援の取組み状況と課題を重点事業に関する内容を中心に説明し、その後、総合教育センターの事業運営等について意見をいただき協議をしました。教職員研修講座、不登校支援、関係機関との連携、発達支援、ICT教育、保護者対応等の様々な話題から総合教育センターの事業運営について意見をいただきました。改めてセンターの事業の重要性を確認したところです。それと同時に学校現場のニーズに応える運営を心がけていかなければならないことを実感しました。

教育委員の質問との回答

- ・総合教育センターの事業運営について、学校現場や保護者からこういうふうに変えてほしいという具体的な要望とか、センターとしてこうしていきたいという具体的な目標は何かありますか。

(総合教育センター所長の回答) 保護者からはないです。学校現場からは、例えば未来塾の申込方法について意見がありました。昨年度は QR コードでの申込みにしていたのですが、親が勝手に QR コードから申し込んでしまって、生徒は全然参加しないということがありました。そこで、今回は紙の申込みに戻したのですが、学校との協議をしていなかったため「現場の負担を考えてほしい」という意見がありました。また、不登校支援についてもっと現場の意見を聞きながらやってほしいという意見もいただいています。保護者対応について意見をしてくれる第三者がいればいいのに、そういうことができないものかという提案もいただいています。
- ・それはどういうことですか。保護者対応を別の電話ですということですか。

(総合教育センター所長の回答) 学校と保護者の間に立つ第三者という立場で、クレームになったときに止めてくれるような第三者がいないものかというご意見をいただきました。その第三者というのはどんな立場の人がいいのかというところでなかなか明確な回答はできておりません。
- ・ちなみに、保護者は学校に言っても駄目なとき、どこに言ったらいいのですか。学校のほうに対応してくる第三者としてどこに言ったらいいのですか。それは学校からの話ですか。

(総合教育センター所長の回答) その第三者がいたらいいのにという学校からの提案です。
- ・検討中ということですね。

(総合教育センター所長の回答) 教育委員会の立場の者は結局、学校側に立った者として捉えられやすいので、教育委員会が立てた人では難しいのかなと今のところ考えています。
- ・フローチャートみたいに作ったらどうですか。話を聞いていても組織がどうなっているのかよくわからないと思うので。

(教育長の回答) 正直に言いまして、非常に明確な事象で事実がはっきりしているという場合は別ですが、その事象が幾ら調べてもわからないという場合があります。そのような場合、学校が誠意を持っていろいろと対応したとしても、なかなか納得いただくのが難しい場合があります。

現在はスクールソーシャルワーカーなどいろいろな方に協力いただいて、学校も

一緒になって話をしながら何とか解決をしているところですが、そういう場合にどのようにしていくかというのは、かなり難しいと思います。現状でも非常に難しいケースについては、教育委員会から弁護士に相談することはありますが、だからといってそこにいて具体的な対応をしていただけるわけではないので、簡単には解決しない難しいところです。

・保護者から直接、教育委員会に要望とかの電話があるのですか。
(教育長の回答) 当然、直接というのもあります。

・年間どれぐらいあるのですか。
(総合教育センター所長の回答) 統計を取ったことはありません。
(教育長の回答) 数よりも内容ですね。どういう対応をするかというの、それによって都度考えているということです。直接、教育委員会に来る方もありますよね。
(学校教育課長の回答) あります。

・それは委員には伝えてもらえているのですか。委員はみんな内容を知っているのですか。
(教育長の回答) 内容については、プライバシーのこともあり、具体的なことも含めて非常に難しいと思います。基本的には学校のことなので、教育委員会としては学校の中で解決するのを支援していきます。いじめ事案のように重大な場合、学校に委員会を設けてどうするかを考えていくようなことが当然必要になりますが、事実関係がはっきりとしていて、そのことについて保護者を含めてきちんと話ができるというような場合は、一番いいのはそこで解決するということになると思います。

・前に少しお伺いした学校全体の学校評価のアンケートは、早い段階で気づくきっかけとなる重要なものでした。あれは何月にしましたか。1回だけでしたか。
(総合教育センター所長の回答) いじめアンケートは6月、10月から11月の間で、年に2回は必ずしています。

・いじめアンケートと学校評価の内容のものですが、要は最初の5月、6月にやっってから、多分7月や9月という早い段階であれば、学校側はどういう変化が起きているのかわかりやすいです。また、アンケートはそんなに時間もかからないと思いますし、それで保護者や子ども、学校がその傾向に早い段階で気づけると思います。多分、2回目のアンケートを取ってからだと、対応が少し遅れるのではないかと思います。なかなか時間的には難しいかもしれませんが、早い段階でその変化がわかればいいのではないかという感じがします。

(教育長の回答) 今、言われたアンケートというのは二つあります。一つははじめのアンケートで、いじめがあるかないか、もしあれば早急に対応するというものです。もう一つは学校評価につながるアンケートで、今、言われたように年に一回取っているといます。だけど、今言われたのは、それを例えば年2回取って、最初に取りってから次にこういう変化が現れたということで、取組みについて評価ができるように考えたほうがいいのかということですよ。

- そうですね。要は学校側からの情報しかない気づかないので、それが手遅れになる可能性もあるのかなと思ってという話です。

(学校教育課長の回答) そういった機会は、例えば参観日のときやオープンスクールもやっているんで、そういう折々にも取ってはおります。全員ではないですが、年間のどこかで一回だけではないと思います。

- アンケートを取るとき、アプリとかメールとかは使えるのですか。今、学校は全保護者のメールを把握されているのですか。

(学校教育課長の回答) 使うときもあります。学校は緊急メール用のアドレスを把握しています。

- そうしたら、全部メールでできるということですか。

(学校教育課長の回答) はい。

- アプリでもできるのですか。

(学校教育課長の回答) 単純なメールではなく配信メール機能サービスがありまして、その中にアンケート機能もついているので使えますし、独自のいわゆる私たちが使う 구글アンケートみたいなものも作れます。

- 子どもも使えるのですか。

(学校教育課長の回答) 子どもには子ども用のタブレットに配信するだけです。また別のルートになっています。

- 学校から子どもにアンケートを取るの、タブレットでできるのですか。

(学校教育課長の回答) できます。

(教育長の回答) アンケートについては今、出た意見も参考にしながら、今はタブレットなどを使ってアンケートもできますので、より丁寧にするよう考えていきたいと思っています。

- ・フリースクールのことでお聞きしたいのですが、もう市内の4中学校にフリースクールがそろったということですね。それに関しては順調にいらいますか。

(総合教育センター所長の回答) 夏休みの間も数日間ですがそれぞれのフリースクールを開室しました。やはり夏休みは1学期よりも通う子は少なかったです。ただ、8月8日にはフリースクールとふれあいホーム合同で夏祭りをしまして、私も焼きそばなどを購入しました。子どもたちは所員を相手にお店やゲームをしました。運営委員会でも、職員からは「なかなか普段見られない子どもたちの姿を見ることができた」という評価が出ていましたので、今のところ順調だと思います。ただ、この長い夏休みが終わった後、2学期が順調にスタートできるかは少し定かではありません。

- ・2学期も行けるように、夏休みも何日間か開室したわけですね。子どもたちの評価は高いほうでしたか。

(総合教育センター所長の回答) 両極端だったと思います。フリースクールに来る子と、行かないと決めている子もいました。なかなかこちらの思うようには行かないかなというところですね。交友関係は保護者懇談等も通しながら、所員のほうから行っております。

- ・何パーセントぐらいのお子さんがフリースクールに来られていますか。出席率ですね。来てほしい人数全員が必ず来ているわけではないですね。

(総合教育センター所長の回答) 皆勤の子もいれば、数日間しか来ない子もいます。パーセントと言われると、出席の日数にばらつきがありますので難しいと思います。

- ・皆勤のお子さんだったら自分のクラスへ戻っていけそうな感じでしょうか。

(総合教育センター所長の回答) クラスにはなかなか戻りづらいようです。ただ、やはり進路を控えてくると、教室への意識は強くなってくるかなと思います。

学校再編室長

学校再編室から3点ご報告します。

まず、1点目は統合中学校のワークショップについてです。7月30日に中学校の先生方34名に参加していただき、5班に分かれていろいろとご意見をいただいたところです。8月17日には親子ワークショップということで、こちらは5組11名の参加で、内訳は中学生が1名と小学生が5名でした。中学生の参加が少なかったため、中学生の生徒会役員向けにまた意見を伺うため、今、日程調整をしています。

2点目は制服メッセについてです。9月5日から7日の3日間、健康福祉会館で、制服メーカー4社に来ていただき中学校の制服の展示会を行います。

3点目は第3回の泉中学校区統合小学校の開校準備委員会についてです。8月29日19時から北部公民館で行います。協議事項は体操服、スクールバス、統合小学校の学校名です。学校名は第1次選定で五つに絞っておりますが、今回の開校準備委員会でこの中から名前を決定します。学校名が決まりましたら、その後、校章や校歌についても協議をします。

教育委員の質問と回答

- ・先日、私も親子のワークショップを見させていただきました。ただ、参加者があまりにも少な過ぎて、誰が来ているのかなと見るとある校区の方が9割ぐらいを占めていました。先ほど言われていたように生徒会を中心に、またこれから中学生になる小学校の児童会の子どもを集めて開いたらいいのにと思いました。いい案が出るかはわかりませんが、未来を担う子どもたちなので、この機会に児童会や生徒会を集めてやってみたらどうかと思いました。

そして、私も会長をしていたのですが、連合 PTA 会長会というのも、加西市全体の会長が集まってきているので、そこを巻き込んでやったらどうかと思いました。加えて、もしよければ会長の子どものさんも一緒に交えてワークショップをしてはいかがでしょうか。私の経験からすると、みんな小学校区ごとにいろいろな習慣とかがあるので、かなり意見が出されるのではないのでしょうか。この前のワークショップが駄目というわけではないのですが、こういう形でやっていったらいいのではないのでしょうか。

例えば、今の教室は画一化しているので、それについていろいろなアイデアを出してグループ学習できるようにという意見もあり、未来の教室をどうしたらいいかという意見が出ていたのはとてもよかったですと思います。せっかく中学校を造るということでやっているわけですから、児童会、生徒会、保護者、連合 PTA 会長会を巻き込んでやったらいいのではないかというのは、私が一番思ったことです。

- ・山南中を見させていただいて本当にありがとうございました。地域の学校を造るという思いがあり、あそこは近くで恐竜が出たということで校舎の壁に地層を入れて、地域のシンボルを工夫して入れられないかとか、丹波の木材をできるだけ使うというコンセプトの下に造られていて、非常に参考になりました。また、光の入れ方、子どもたちが最初に入る玄関をどういうふうにするかといったところも、参考になってよかったですと思います。設計事務所の方や中学校の先生方も一緒に来ていただいたので、見たものを今度は加西の新しい学校にどう実現していくかということをお願いしたいと思います。

もう1点は中学校の先生方のワークショップについてです。私も参加させていた

だきましたが、「緑が多いというのはとてもいいが、できたときにその後の管理などが大変だな」というような声もありました。駐車場や体育館の位置は、少し変えることができるようなことも言われていました。そういう先生方の意見、そして今教育委員も言われたように子どもたちの意見や思いを聴くということで、本当に精力的に動いていただいています。ただ、一方で期限もあり、要望を長いこと聴くばかりではなく、どこかで決めて設計をしないと、準備が間に合わないということもあります。ですので、できるだけこの夏休みを使って子どもたちの意見を集約できたらいいと思います。片方は中学校、片方は小学校と並んで進んでいる状況で、その後も大変なことがいっぱいありますが、よろしく願いいたします。

- ・ 小学校の校名ですが、本当に今回の委員会の中で決めるのですか。子どもたちの意見は入っているのか、私はとても気になります。

(教育部長の回答) まず、最初に募集を行いました。お子さんから名前を応募いただいております。皆さんに名前を考えていただく機会をつくりました。

開校準備委員会でどのように決めていくかという議論の中では、準備委員会で五つに絞った上で、そこから最終的に決めようということになりました。準備委員会の皆さんは、自分たちで決めないといけないという責任をお持ちだと思いますので、いろいろなお声を聴いていращやるのではないかと思います。そうした上で最終的に次回の準備委員会で決まることとなります。

- ・ 小学生やこども園の保護者もそうですが、小学生の意見を聴いておいたほうがいいのではないかなと思いました。学校名もインターネットかなんかでの募集だけだったので、泉、宇仁、西在田、日吉の小学生を対象に校名の募集をしてもよかったのではないかなと思います。後から私が言うのもあれかもしれませんが。

(教育部長の回答) どういうプロセスで名前を決めていくかについては、私たちも準備委員会が始まるまでに他市の状況を調べました。広く公募をした上で、今のように準備委員会で最終的に決めるというのが一般的でした。

- ・ 応募数も少なかったのかなと思って見ていました。

(教育部長の回答) 中学校も今、公募しているところです。

- ・ 泉よつばこども園の名前は、四つの小学校区が幸せに一体となっていきたいと思います。ということで、そうになりました。泉の小学校の名前はわからないですけど、根拠があってこういう校名になりましたというふうにつけてあげたほうがいいと思います。

(教育部長の回答) 泉よつばこども園のときも皆さんから応募いただいております。今回も名前の由来や思いも含めて、評価しながら決めさせていただこうと思っています。

す。決まった名前についてはそれぞれに皆さんの思いがしっかりあると思いますので、それをしっかりと形にしていきたいと思います。

- ・取りあえず、この第3回で決めてしまうのですか。

(学校再編室長の回答) はい。

- ・子どもたちにとって自分が学ぶ学校であり、地域の方にとっても自分が通ってきた学校が統合されて新しい学校になるということで、本当に地域全体の問題だと思います。それが集約するということで、今、部長が言われたように、委員の方は責任も重いですし、その思いを背負って議論していただけたと思いますので、私はもうお任せしなければいけないと思います。

- ・この間は山南中へ見学に行かせていただきありがとうございます。もう1校ぐらい行けたらと思うのですが、本当にとっても参考になりました。「どんな学校にしよう」と言われても漠然としてわからないですが、山南中にはとてもいい点がたくさんありました。まず、山南の木材が使われていて木のぬくもりがよかったですし、今から大きく成長していく子どもたちに本物を与えるというのは、大切なことだと思います。そして、食堂もとても広くて明るくて、天井が高かったのもよかったですし、そこに子どもたちの思いを塗り込んであると言われていましたよね。何か子ども遊び場というものを本当に象徴していて、本当によかったと思います。どうかという点もありましたが、いいところを見せていただきました。

出来上がったときにただの入れ物というだけではなく、本当に子どもたちの遊び場と誇れる、また他方からも見せていただきたいと思われるような場であってほしいと思います。子どもたちにいろいろな意見を出してもらって、その意見を参考に子どもたちが誇れる学校にさせていただけたらと思います。よろしく願いいたします。

- ・まず、統合中についての意見です。視察に行かせていただきましたが、ワークショップでは子どもたちも保護者も掃除が大変だという話をしていました。出来上がったときにこれどうなのかというのは、結局それに尽きるかなというぐらい結構、評価の大きなところになってくると思います。例えば、この前視察に行ったとき、理科室に大きなホワイトボードがあり、これはマグネットで使えると言うので、マグネットをつけてみたのですが、つかないのです。ホワイトボードってマグネットがつくとおっしゃいますが、なかなかつかないもので、前からよく言われています。そういうふうにも実際どうなのかということを入念に調べておかないと、せっかくあれだけ大きく作ったのに使えないというのがいっぱい出てくると思うのです。そういう

ことを結構じっくりと考えてやってほしいなというのがあります。

それから、掃除のことを言うと、さっき言われていたようにデザインをつくるときは家でもそうですが、大体緑を入れるときれいに見えるのですね。きれいに見えるけれども、結局は掃除をする人が誰かなんです。市役所とか我々の大学とかだと外部が掃除をしますけど、学校に関しては実際に掃除をするのは先生と子どもたちです。その掃除をする人が「いや、こんなにいっぱい木は要らない」と言うのなら、逆にそれは優先してあげないといけません。「いや、全体はきれいだからこれでいい」と決めてしまうと、学校の先生が困るということになりますので、できる限りそこは尊重していただきたいです。

私からするとシンボルツリー以外の木は全部要らないのではないかというぐらいで、落ち葉の清掃は本当に大変だとよく聞きます。ただでさえ忙しい学校現場において、せっかく新しい学校を造るのに、同じような問題が起こるのだけは避けていただきたいです。まあ緑地のことがあるのでそれは代替の方法があると思います。その辺をお願いしたいなと思います。

(教育長の回答) ありがとうございます。

- ・今、教育委員がおっしゃっていたような意見も踏まえて、私たち教育委員4人も視察させていただいたので、ワークショップまでは行かないですが、一回その建築会社と話し合いをしたいなと思っています。もしスケジュールが可能であればよろしくお願ひしたいと思います。私も少し言いたいことがあります、ここは定例会ですので取りあえずここまでにしておきます。
- ・制服メッセについてです。「メッセ」とか「ワークショップ」という言葉はあえて使っているのですか。「展示会」や「意見交換会」のほうがいいのかなと思ったのですが。
(教育部長の回答) 正式名称は「制服メッセ(展示会)」としています。制服メーカー4社に来ていただいて、それぞれの業者さんが作るブレザー、例えばズボンとスカートの両方のタイプとズボンだけのものなど何パターンかを並べて、みんなに一堂に見ていただくというものです。試着して素材や着心地とかを感じていただきたいところを表現しております。
- ・前にした制服のアンケートについてなのですが、中学校の保護者の回答数は824人中37人でした。アンケートが来たときのことを保護者に聞いてみたのですが、アンケートは普通でわかりづらくもなく、きちんと来て、きちんとできる状態だったのに、回答されなかったということで、だからどちらかというと、アンケートの仕方には問題はなかった感じですね。

(教育部長の回答) 保護者アンケートと児童生徒アンケートは Chromebook を使ってきました。子どもたちは担任の先生の操作説明を聞いた上で入力できるようにしていたので、技術的な問題というのとはなかったと思います。

- ・中学生を持つ保護者の中には、小学生以下のお子さんもいて重複している人というのがある、結構いたのではないですか。

(教育部長の回答) 保護者にはプリントをお持ち帰りいただいています。重複される方がありますので、回答される時は、年齢の低いお子さんの保護者として入力いただくようにしています。

- ・小学生保護者の回答率もとても低かったような気がして、結構心配です。せめて半数以上の回答がないと欲しい情報は入ってこないのではないかと思います。例えば中学校の保護者は一番、制服を洗濯していて、着心地や実際どういうものかというのは全部情報としてわかっていると思います。それなのにその人たちの情報がなくて、それ以外の情報だけで決めてしまうというのは、間違える可能性があると思います。今後は中学生保護者にはもうアンケートしないのですよね。

(教育部長の回答) 今度の制服メッセという展示会するときにもアンケートはご用意させていただこうと思っています。展示会が終わりますとメーカーを決めるのですが、プロポーザルでメーカーを決める計画にしております。皆さんのニーズに一番かなった提案の業者に決まれば、何点かデザインしていただきます。そうしたものを市役所等で展示させていただいて、最終的に保護者と児童生徒の投票で決めていきたいと考えております。

- ・回答率が低い原因はどのようなふうに分かっていますか。

(教育長の回答) 今回私が反省しないといけないのは、ある程度ジェンダーも加味して、ブレザーが適当ではないかと思いつつ、最初のアンケートはフラットでとろうと考えてとったことです。最初から教育委員会としての思いを出して、それについてお答えいただくというふうにしていたほうが、保護者もそれをわかった上でご判断できたと思います。そこは反省しております。

ただ、今後は、教育委員会としての方針も示させていただいていますので、実際に制服を決めていく中で、できるだけ保護者のご意見をお伺いしていくべきだと思います。1%や4%の結果ではなかなか難しいですので、今、部長も言いましたように制服メッセで実際にいろいろな制服をその色も含めて見ていただいて、その場でアンケートを取るのもそうですし、もう一度できるだけたくさんの方の意見が集約できるような方法を考えたいと思っています。

- ・展示会の動画や画像などを来られなかった人にも送るというのは、どうですか。
 (教育部長の回答) 展示会はもうその場でしか体験できないと思いますので、その3日の間にお越しいただけるようお願いしたいと思います。
- ・ネットで服を買うとき、生地感とか全部出るようなものがあるので、展示している物を画像や写真でいろいろやれるのではないですか。来られない人はもう何もわからないままということですか。
 (教育部長の回答) 基本はその場で見てお答えいただくということになりますが、委員からご提案いただいたような形で、こんな制服がありましたということをお伝えできる工夫については考えたいと思います。
- ・要は来る人をどれぐらい想定しているかということですか。少ないとなったときにそれも含めて準備をしておけば、対応できるのかなと思いました。
- ・中学校の保護者が4%で小学生の保護者が11%となると、展示会に見に来てくださいますか。さっきの話を聞いていたら、意識が薄れてきているような感じがします。
 (教育長の意見) もう一度学校を通じて、ぜひ一度、肌触り等も含めて直接見てくださいますか。呼びかけるしかないですね。最終的には投票で決めていくので、全然わからなければ投票できませんから、いろんなものをこれから出していくので、情報を得ておいてくださいということをお願いするしかないかと思えますね。
 (教育部長の回答) 現状はこんな制服がありますよというところで、まだまだ保護者や子どもの皆さんから意見をいただく段階です。正式にメーカーを決める段階で仕様を固めていくので、まだ今は準備段階になります。それで、一人でも多くの方にご意見がいただけるように工夫したいと思います。
- ・始業式のときに子どもたちを通じて案内文を持って帰ってもらうというのも一つの方法だと思います。そういう案内は全保護者に行くわけですね。
 (教育長の回答) 子どもたちに対しては、各学校に持ち回りで持って行って見てもらうとかはできますよね。
 (教育部長の回答) その辺りの工夫も考えたいと思います。
- ・このアンケートを見ていたらここにあるから、「ブレザーはこういう色やね。もうほぼ決まっています、カッターシャツで上が紺、ズボンが黒で、チェックなしのシンプルなブレザー。これ小学生、中学生はこのぐらいがいいのかな。これで決定やな。」と思ってしまうんですけど、これで決定じゃないということで、これをモデル

に並べるわけではないのですか。

(教育部長の回答) まだまだ何パターンも出していただくこととなります。最終的にはメーカーを絞って、そのメーカーが提案するものとなります。

・例えば各メーカーの自信を持っているものを展示するのですか。

(教育部長の回答) 例えば価格がばらばらだと参考にならないので、今回はアンケートの中で価格帯をそろえた物を、カラーについてもバリエーションを出してもらって、例えば無地の物やチェックなどの柄がある物など、何パターンか用意していただきます。それを皆さんに見ていただければ、「無地がいいと思ったけど、チェックがいいな」というようなこともあるかと思しますので、実際に見ていただくことが大事だと思っています。

・では、先に見てもらってからアンケートを取ったほうが一回で済みますね。

(教育部長の回答) もちろんその場でもアンケートはお取りします。

・これを見ていたら、また保護者がどれだけ来てくれるかですね。前にやった学校の統廃合について、小学校は統廃合するか、そのままか、中学校は統合するかというアンケートみたいに、最低でも過半数を取るような結果を出さないと、保護者も納得しません。アンケートをしない親が悪いのかもしれませんが、そういう親に関して言われる親も出てくるので、できたら過半数を目標としてアンケートの集計を出されたほうがいいのではないかと思います。

(教育部長の回答) みんなから最も合意を得やすい案を選ぶということになりますので、そのためにもたくさんのご意見を聴いた上で責任を持って選択するということになると思います。今の段階では、まだこれに決まりということは一切ございません。

・取りあえずデータは出ているので数です。これではあまりにも少な過ぎるので、どんな形であろうとという言い方をしてはいけません。加西市の保護者全員にこういう経緯で制服はこうするというのを伝えた上で、アンケートの数が最低でも 60% を超えるようにするべきです。例えば QR コードは大変という人もいますので、経費がかかるかもしれませんが各小中学校に紙で配ってやるとかできると思います。

(教育部長の回答) アンケートは、1人1人のご家庭に配っております。

・取りあえず 60%は行かせましょう。そうでないと、数が少なかったら何か聞かれても、私たちも答えようがありません。この 11%や4%というのは本当に悲しいです。これだったら結局、親はもう子どもの好きなようにいっそ決めてというふうになっ

てしまいます。だから、これは大事なことです。

(教育部長の回答) 例えばもう自分たちには関係ないという方もいらっしゃると思いますが、いかにお答えいただけるようにするかというのは、しっかり考えていかなければならないと感じております。

- ・この件ではこれからもずっと決め事を多分していくと思います。すごい量があるので、これはどういうことかというのを事前に紙に書いて説明するのは、当然大変だとは思いますが。でも、来る人やアンケートに答える人が、今どういう段階で何をしようとしているかというのがわかれば、もうちょっとアンケートの回答率が上がるのかと思います。要は、先ほどの制服についても「恐らくもう決まっているだろう」とか思ってしまいますが、その辺も部長から話を聞くと「なるほど、今こういう状況で、こういう段階なのだ」とわかるわけです。なかなか言葉にするのは難しいとは思いますが、できれば今から決めごとをするというときは、最初に今やっているここはスケジュールの中のこういう段階ですよというのを伝えていただければ、まあどこまで改善するかはわかりませんが、もうちょっとスムーズに行く可能性があるのではないかという感じがします。

1 1 協議事項

なし

1 2 教育委員の提案

- ・今、夏休みに学校での奉仕活動をされているのと、あと年間で3回、美バースデーという廃品回収をしていると思います。各学校の先生は全員勤務時間中の仕事としてこれをやっているのですか。全部の学校ですか。保護者は全員ボランティアですか。それとも保護者にお金が行っているのですか。
保護者は全員ボランティアで、先生は勤務としてやっているのですね。それは前からですか。
(学校教育課長の回答) 先生は基本全員です。保護者は全員ではなく、限定して何年生の保護者とかとしています。保護者へのお金はないです。保護者は全員ボランティアで、先生は勤務としてやっています。それは前からです。
- ・保護者によっては当然パートなどで日曜日に仕事がある方もいます。その役に当たると、廃品回収があるからと仕事を休んで来られる方がいます。もちろんそれは町の行事も同じなのですが、その話ではなくて、全体としてもう一回いろいろ考えてほしいなと思います。個別ではなく、いわゆる美バースデーについては、はっきり言えばお金を集めるためにしていることで、それから奉仕活動は主に草取りですよ。

これをするためだけの集まりに近いのですが、それにいろいろな理由をつけてやっているというのが現状だと思うので、1年かけても2年かけてもいいので、そろそろ一度真剣に考えていただきたいなと思います。

(教育部長の回答) これまでも学校再編で保護者のご意見をお伺いすると、PTA活動の見直しをしてほしいという意見がたくさんありました。ぜひともこれは学校再編と併せて検討していかなければいけないと考えています。市として「こういうことでどうでしょうか」ということを持ちかけられる機会があれば、話を進めていきたいと考えているところです。8月27日には連合PTAの会合があり、今後のPTA活動について率直に意見交換させていただく機会を持ちたいと思っているところです。

- ・後日でもいいかなと思ったことなのですが、ついでにお話させていただきます。学校の入学式、卒業式や運動会に来賓の挨拶というのがあると思います。昔は議員の先生やいろいろな方が挨拶されていましたが、今はどこかでラインを区切ってこの方たちには挨拶いただくというふうになっている学校が多いと思います。また、他市では来賓の挨拶自体がないところも多分あると思います。私は個人的に来賓挨拶は必要ないと思っています。なぜかという、私も初めて知ったのですが、学校の卒業式などをするときは何をするかがもう分刻みに決まっていて、来賓対応と来賓の時間というのはかなり取られているものです。それで、私のいた学校でPTAの挨拶をなくした途端、子どもへの時間がかなり取れたのです。

これは個人的な意見ですが、私は教育委員としての告辞も含めて来賓挨拶を今の時代に合ったようにしたらどうかと思います。なかなか学校からは言いづらいことですし、教育委員会としてこうなさいというのはできないと思うのですが、こういう方法もありますというように検討していただきたいというのが、正直なところです。これは来賓の挨拶の話であって、来賓席をなくすということではありませんし、逆に地元の方をもっと呼んでもらえると思います。挨拶については一度検討されることはありますか。

(学校教育課長の回答) 地域の方の意見もあると思いますので、ご意見をお伺いした上で、今後はそういったことも考えていく必要があるかと思っています。

- ・あれは各学校の校長先生がほとんど決めているのでしたかね。

(学校教育課長の回答) これまでずっと長い期間、昔からやってきたその学校のしきたりどおりにやっているだけだと思いますが、コロナの後で、確実に大分減りました。

- ・教育委員会としては私たちの告辞だけだと思いますが、あとの挨拶は校長先生が挨拶してほしいという方をお願いしているのかと思っていました。だから、来賓の挨拶

拶などは教育委員会で決めることでもないかと、まあ様子はわかりませんが。
(学校教育課長の回答) 学校だけで決められないことについて委員会のほうから話を
持ちかけるというのは、方法としてあると思います。

- ・今は地域と共にやっているので、地域主催の卒業式みたいになってきている感じが
します。

(教育長の回答) 今の時代に合った形にすることはできると思います。市によっては
もう教育委員会の告辞をなくしているところもあります。そういうことも含めてど
の形がいいかというのは、最終的には各学校や学校長が判断するものですが、教育
委員会としてこういうことはどうですかとか情報提供や提案はしていけるとしま
す。

1 3 今後の予定について

- ・令和6年第9回定例教育委員会 9月18日(水) 14:00～1階多目的ホール
- ・令和6年第10回定例教育委員会 10月22日(火) 14:00～5階大会議室

教育委員の質問と回答

- ・10月に総合教育会議があるということですが、また予算の話が出てくると思います。
いきなりこれですと言われても困るので、前もって事務局としてどういうふう
に予算を考えているのかということをお知らせしておきたいと思っています。多分、
総合教育会議は予算が中心となりますよね。できたら、10月手前ではなく、9月
の時点でわかる範囲でいいのでお知らせいただけますか。行政だからわかりませんが、
難しいですか。

(教育長の回答) できるだけ早くお知らせしたいと思いますが、もしかしたら確定し
ていないことがあるかもしれませんし、内容について口頭でご説明しないとわかり
にくいこともあると思います。その辺はご了承いただければと思います。

- ・もしよかったら説明会を開いていただけたらと思います。よろしく願いいたしま
す。

1 4 その他

なし

この会議録は、事務局員が作成したものであるが、真正であることを認め、ここに署名する。

令和6年8月20日

出席者

(出席者署名)